

**第37回海洋開発シンポジウム（2012）ならびに  
「土木学会論文集B3（海洋開発）」特集号（Vol. 68, No. 4予定）の論文募集のご案内**

海洋開発委員会では、最新の研究及び調査や施工に関する技術報告の場として土木学会論文集B3を発刊するとともに特集号掲載論文の発表ならびに討議を行う海洋開発シンポジウムを開催いたしております。多くの研究者、技術者が一堂に会して有益な情報を提供し、活発な討論を行うことによりこの分野における土木工学の発展に寄与しております。

つきましては、2012年度は下記のように海洋開発シンポジウムを開催するとともに土木学会論文集（B3）特集号への投稿論文を募集致します。土木学会論文集（B3）では、海洋開発に関わる最新の研究成果の他、実務者・現場からの有用性の高い報告や将来の発展に寄与するような新規性のある技術も重視しております。さらに、海洋開発に対する認識の変化に対応して時宜を得た話題を取り上げた特別セッション、小委員会の研究成果を含む座長企画型セッションも設定しております。一般論文はもちろんのこと、特別セッション、座長企画型セッションの論文についてもふるって講演応募くださいますようお願いいたします。

2012年1月16日

公益社団法人土木学会 海洋開発委員会

## 第37回海洋開発シンポジウム（2012）の開催概要

### 1. 主 催

土木学会（担当：海洋開発委員会）

### 2. 期 日

2012年6月27日（水）～6月28日（木）

### 3. 場 所

北海道函館市 函館国際ホテル

住所：〒040-0064 北海道函館市大手町5-10

電話：0138-23-5151（代表）

URL：<http://www.hakodate-kokusai.jp/index.php>

### 4. 参加費

無料

### 5. 講演集

CD媒体での事前および当日販売

予価2,000円（消費税・送料込）

### 6. 開催地案内

開催地の函館は、1859（安政6）年に、横浜、長崎とともに日本最初の貿易港となりました。2007年の長崎、2009年の横浜でのシンポジウムに続き、最初最古の物語に囲まれ異国文化漂う港の街で、学术交流とさわやかな北の初夏をお楽しみください。

## 「土木学会論文集B3（海洋開発）」特集号（Vol. 68, No. 4予定）の論文募集要綱

### 1. 募集課題

#### （1）特別セッション指定課題

##### S1. 津波と海域施設（仮題）

昨年の特別セッションテーマ「東北地方太平洋沖津波の被災分析」および「海域施設の設計・施工技術の新たな展開を目指して～被災事例に学び、将来に活かす～」に引き続き、今年も津波に関するテーマを継続いたします。極めて大きな被害がもたらされた沿岸部の海域施設の今後の復旧に当っては、従来とは異なる設計の考え方が求められています。そこで、今年の特別セッションでは、海域施設を港湾、海岸の構造物や設備のみならず水産施設、漁場、養殖場などまで広くとらえ、今回の被災状況を改めて分析しつつ新たな設計の考え方について議論します。

#### （2）座長企画型セッション

##### C1. 海洋沿岸プロジェクト（仮題）

海洋基本計画が策定されて約4年が経過し、次期の計画見直し本格化しようとしています。新しい海洋基本計画において、海洋・沿岸プロジェクトの推進が期待される所々であります。そこで、本セッションでは、海洋・沿岸プロジェクトに関する事業の計画・立案や事例分析・効果評価など事業推進に資する研究成果の報告を行います。一般の方からも、このテーマに関連する内容で、論文の募集を行います。

#### （3）一般課題

##### G1. 海洋における政策・事業・総合的管理

キーワード：海岸・港湾・海洋の計画・政策・事業・管理，物流（港湾・海上輸送）  
など

##### G2. 海洋施設の計画・設計

キーワード：波の変形，波浪推算，長周期波，漂砂，波浪制御，浮体，船舶，基礎  
など

##### G3. 海洋施設の施工・維持管理

キーワード：機械・装置，材料，リサイクルなど

##### G4. 海洋の調査・技術開発

キーワード：調査手法，計測手法，計測機器，モニタリング，新技術，イノベーションなど

##### G5. 海洋環境の保全・再生

キーワード：閉鎖性水域，赤潮・青潮，干潟・浅場・藻場，植生，ミチゲーション，  
自然再生事業・順応的管理など

#### G6. 海洋の利用

キーワード：海洋環境・生物資源の利用，沿岸環境の利用，海洋エネルギーの利用，  
海洋資源の利用，氷海域の利用，離島の利活用，海洋空間利用，海洋  
教育，レクリエーション，アメニティ，景観など

#### G7. 海洋における防災

キーワード：高潮，津波，災害事例など

## 2. 申し込み要件

- (1) 論文は原則として未発表のものに限り，二重投稿は認めません。
- (2) 1編あたりの著者数は，最大8名とします。また，原則として，著者には土木学会員が1名以上含まれていなければなりません。
- (3) 論文要旨の受付終了以降は，原則として「論文題目」，「著者名」，「著者の序列」の変更はできません。なお，予定発表者の変更は止むを得ない場合に限り，共著者までを範囲とし認めます。
- (4) 使用できる言語は，日本語または英語とし，論文要旨および本論文は，同じ言語で記述しなければなりません。ただし，英語を使用できるのは，第一著者が日本国籍でない方の場合に限りです。
- (5) 採択された論文は，同一年度の海洋開発シンポジウムにおいて，講演することが義務付けられます。また，講演者が重複する論文の申し込みは受理いたしません。
- (6) 講演集代を含む掲載料は1編につき25,000円（予定，消費税・送料込）とし，シンポジウム終了後に請求致します。

## 3. 論文の申し込みからJ-STAGE掲載までの流れ

- ①論文申し込み（論文要旨） 提出期限：2月9日（木）17時【必着】
- ②第1次審査
- ③第1次審査結果通知（3月5日ごろを予定）
- ④論文原稿提出（本論文） 提出期限：4月5日（木）17時【必着】
- ⑤第2次審査
- ⑥第2次審査結果通知（4月27日ごろを予定，修正事項がない場合⑧へ進みます）
- ⑦修正論文提出（第2次審査結果通知の際に提出期限をご連絡いたします）
- ⑧最終原稿・J-STAGE用電子ファイル提出 提出期限：5月14日（月）17時

原稿提出方法は、採択結果通知時にご連絡いたします。

#### ⑨論文の口頭発表・討議（於：海洋開発シンポジウム）

開催日：6月27日（水）、6月28日（木）

※シンポジウム講演集（電子媒体）の申し込み（WEB受付：5月中旬）

#### ⑩J-STAGEへの掲載

採択された論文は、「土木学会論文集B3（海洋開発）, Vol. 67, No. 4」として、2012年11月下旬頃にJ-STAGEに掲載予定です。ただし、これよりも早く発刊される巻号での掲載を現在検討中です。掲載号が変更になった場合は、ホームページ等を通じてご連絡します。

## 4. 申込方法

海洋開発委員会の電子投稿システム (<http://journal.ce-ocean.jp>) を使って、論文要旨を電子投稿して申し込みます。論文要旨は、図表等も含めA4用紙2枚以内（厳守）に、募集課題分類、論文題目および論文要旨を記述し、電子投稿システムに記載されている論文要旨投稿要領にしたがってお申し込み下さい。e-mail、郵送、FAX、持参については受け付けることができませんのでご注意下さい。

なお、論文要旨には、下記の事項をご記入ください。

- (A) 募集課題の分類（前述1. S1, C1, G1～G7のいずれか）
- (B) 論文題目（著者名と所属など著者を特定できる情報は絶対に記入しないで下さい）
- (C) 論文要旨

論文要旨には「研究（調査、工事）の目的」、「研究（調査、工事）の内容」、「主要な結論」を項目別に明記して下さい。論文要旨は、和文：1200文字程度、英文：600単語程度でとりまとめ、主要な結論に至る図表等を必ず貼付して下さい。また、論文要旨には、著者名など著者を特定できるような情報は記入しないでください。作成方法の詳細については、電子投稿システムHPにあるサンプルファイルを参照ください。

## 5. その他

- (1) 論文要旨と本論文を査読基準に従って査読の上、海洋開発委員会において審査を行いますので、「採否」についてはご一任下さい。
- (2) 「土木学会論文集B3（海洋開発）」特集号（Vol. 68 No. 4予定）に採択された論文は、事務局でヘッダー及びページ番号を追加し、J-STAGE上で電子発行される予定です。紙媒体の発行は行いません。
- (3) 「海洋開発シンポジウム」開催時には、J-STAGEでの電子発行が行われないため、ヘッダ・ページ番号の記載のない電子媒体「海洋開発シンポジウム講演集」を発行します。講演

集代は論文の掲載料に含まれます。ただし、講演集は、正式発行される刊行物ではありませんので、参照・引用文献としての利用はできません。J-STAGEに掲載される論文を利用してください。

- (4) 特別セッションは、セッションオーガナイザーのコンセプトによりセッション内の採択論文を決定します。セッションのコンセプトに適合しなかった論文については、一般セッションの論文として採否を判定します。
- (5) シンポジウムでの発表は日本語を基本とし、論文が英語で記述されている場合のみ英語での発表を可とします。
- (6) シンポジウムではご発表後に論文に対する討議の時間を設けます。
- (7) 本論文のフォーマットが今年度から変わりますので、必ずサンプルファイルをご確認下さい。

以上